

平成 22 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19404015

研究課題名 (和文) ベトナムの歴史都市・ハノイ 36 町の空間構成とその保全に関する研究

研究課題名 (英文) A Study on 36 Streets of Hanoi, the Most Thriving Historic Town in Vietnam: The Urban and Architectural Structure, Historic Conservation & Community Development

研究代表者

福川 裕一 (FUKUKAWA Yuichi)

千葉大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号：60130829

研究成果の概要 (和文)：

ベトナムの歴史都市・ハノイの旧市街 (通称 36 町) について、1) 都市史・建築史の観点から、その空間構成を明らかにし、2) 建物の実測調査・居住環境調査によって同時代的な都市の変容や居住環境に関する問題を明らかにし、3) それら知見をもとに対象地区の特性を描出し、対象地区、そして多くの歴史的都市の今日的課題である都市保全に供するための基礎資料及びそれに立脚した町並み保全・再生の指針を作成した。

研究成果の概要 (英文)：

This is a study for conserving 36 Streets of Hanoi, the most thriving historic town in Vietnam. Through this study 1) we made clear what urban (street) plans were implemented from the end of the 19th century to the beginning of the 20th and what town (townscape and urban spaces) had been formed, 2) we completed the chart when and what kinds of houses were built (chronicle of buildings) through survey of the traditional houses, and 3) we proposed how to conserve and implement community development including design codes. Through the term we have held scientific meetings on the study of 36 Streets every year with Vietnamese colleague for sharing the findings and scholarship and setting for discussion.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,600,000	1,080,000	4,680,000
2008 年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
2009 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
年度			
年度			
総計	10,300,000	3,090,000	13,390,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：都市計画・建築計画

キーワード：歴史的町並みの保存、ハノイ、36 町、リビング・ヘリテージ

1. 研究開始当初の背景

(1) ハノイの旧市街 (通称 36 町) は、面積およそ 100ha、チューブハウスと呼ばれる極度に奥行きが深く間口が狭い町家が建ち並び、そこに約 15,000 家族、66,000 人が生活する高

密かつ広大な密集市街地である。グロスの人口密度は 660 人/ha だが、1 ロット当たりの家族数は 5.5 で、住宅問題としても課題は多い。一方で、その起源は 11 世紀にさかのぼる歴史的な地区である。今日の姿は 17～18 世紀ごろに形作られたと考えられ、ハノイの人々に愛

されるとともに、世界遺産の候補にもあげられている。

(2) 私たちの研究グループは、1990年代初頭からベトナムの歴史的環境に関する調査・研究にたずさわり、1) ベトナム中部の港湾都市・ホイアンの町並み調査、修復、住民参加の町づくりに関する調査研究を行い、1999年のホイアンの世界遺産登録に寄与し、2) ハノイにおいても、当時その価値を認められていなかったフランス建築の調査にいち早く取り組み、現地研究者との協働による基礎的調査、出版・シンポジウムの開催等による成果の公開、研究の中で得られた知見を基に現地環境・文化に根ざした新しい住宅モデルの提案とその実現(建設)、などに成果をあげてきた。これらの成果は現地でも高い評価を得ている。ハノイの旧市街については、「基盤研究(B)(海外): 開発著しいハノイ都市圏における近郊農村・下町・新住宅地の町づくり研究: 住民参加による伝統と近代化の調和のとれた都市をめざして」の一部を担う形で、3年間にわたり調査を行ってきた。調査では、ハノイの旧市街の心臓部とも言うべきハンバック、マメイの各通りとその裏通りであるファットロックについて、実測調査に基づく歴史的建物や居住環境の実態の把握、歴史についての聞き取り、フランス極東学院の資料による歴史的建物や景観の復元などの作業を行い、一定の仮説を構築する成果を得た。その過程では新しい歴史的建物の「発見」もあった。

(3) 上記基盤研究では、対象地域を下町地区、近郊地区、農村地区の3つに広く求めていたが、下町地区(36通り地区)だけでも研究内容が膨大となり、対象地を絞って、より深く研究を進めていく必要性に行き当たった。また、都心に位置する下町地区ならではの問題の固有性にもぶち当たることになった。中でも上記基盤研究の共通テーマとして設定された住民参加については、下町地区自体の規模が大きいこと、変化が激しく地価の上昇が著しいこと、激しい経済成長のもとで住民内の意見対立が起きていることなどから、「住民参加の町づくり」にはまだまだ解決すべき課題が多いことを思い知らされることとなった。多様な背景・様相を持つ下町地区の中では、ここまでの成果は限定的なものにとどまらざるを得なかった点もあり、より研究を進展させる必要性が生じていた。

2. 研究の目的

ベトナムの歴史都市・ハノイの旧市街(通称36町)の調査を通して、同地区の保全・整備に寄与するとともに、以下の課題について重要な手がかりを得ることを目的とする:

(1) 歴史的町家・街路空間の解析(アジア都市史学の方法論構築): フランスなどに保管されている古い写真、古老の話、フォンに保管されている史料などとともに、19世紀末から20世紀初頭の36町の店舗、景観、歴史的建物の特徴、過去の町並み構成の規則(町触れ)等を明らかにする。都市史学としては、ヨーロッパ型の遺構に基づく調査法、文献史学との共同により史料解析を中心とする日本型研究が進展しているが、アジア都市ではヒアリングや遺構の調査等の複合型調査を行い、断片的な状況を縫合していく作業が必要である。これは、近過去に都市史的断層(都市が変動した時期)があるアジアの都市では有効なアプローチであり、遺構も史料も乏しい状況での都市史学の方法論確立の一助となること。

(2) 町家の歴史的研究、街区形態の研究(アジア型都市住宅としての町家研究): 過去3年間の調査分析で得られた、伝統町家の編年についての仮説を、さらに調査例を増やして、より確かなものとする。36町の町家はバラエティに富んでおり、さらに実測家屋を増やすことが必要である。過去3年間の調査では1例にとどまっていた調査街区を、タイプの異なる街区の調査を加え、町家の集合形式と住環境についてのこれまでの仮説をより確かなものとする。都市を構成する単位としての建築がどうあるべきかは、建築・都市計画研究の基本的なテーマで、世界各地で歴史的に形作られてきた都市住宅=町家を調査・研究し、その普遍性と固有性を明らかにすることはもともと基本的な作業となる。本研究では、ベトナム北部に展開した都市住宅についての知見を、これまでの研究の蓄積に加え、都市住宅=町家研究を進展させる。また、これは日本から東南アジアにかけての町家の地域的特色を考える上で、他国との比較対照も可能となる。

(3) 空間変容の解析とデザインコードの開発(アジア型町並み保全の方法論研究): 歴史的な空間構成に対する近年の急激な変化の実態とその要因をあきらかにし、それらへの回答を検討する。上記調査の知見に基づき、デザインコードを組み立てる。組み立てに当たっては、仮説的なデザインコードとそれに従った建て替えの実験的な試行を行うシミュレーションを繰り返し、より科学的に結論を得ていく。こうして得た結論を、歴史的地区の保全政策の主要な柱として政府等に提案する。デザインコードを実験的に組み立てる手法は、そのプロセスが、専門家、政策担当者、住民それぞれにとって学習の場となり、より説得力と実効力のある建築ルールへつながる試みとして期待される。従前のワークショップ方式が社会体制などの制約で困難な場合の町並み保全方法の事例としての意味を持つ。

3. 研究の方法

(1) ベトナム側と研究グループを組織化、毎年1回、調査結果を発表し、討議する公開のシンポジウムを開催する。「住民参加」以前に、ベトナム側専門家との経験を通じた経験交流が重要と考えた。ベトナム側専門家が、日本の町並み保存・町づくりの現場を訪れ、その成果をベトナムで論文にまとめるというプロセスをへて、越日の深い討議が可能になると考え、1年目に、ベトナム側専門家の日本調査を実施する。

(2) 36町全体の変容過程に関する調査：フランスに保管されている古写真の収集と、それらが写されている位置の特定、写真と現状との比較により、建築物の旧状復元考察及び経年変化過程を考察することを中心に行う。ハノイには多くの古図が遺されているが、それらの分析はすでに行われており、私たちは、より建築や都市空間に即した調査を進める。これらにあわせて、歴史に詳しい人へのインタビューも行い、生き活きとした歴史の把握につとめる。

(3) 建物および街区の現地調査：最も中心となる調査。歴史的建物の詳細な実測調査、住み方調査。3年の期間中に、ひとつでも多くの建物を調べ、わが国で培われた民家調査の手法を活用して、36町の歴史的な町家の類型・編年をこころみ、その歴史的な意味や価値を明らかにしていく。調査にあたっては、住民に、かれらの家族の歴史、住み方、増改築の箇所、町づくりへの意見を聞く。

(4) 保存の考え方、保存と居住環境改善を両立する手法の開発：当地区は、12世紀からある歴史的市街地である。しかし文字とおり古くから建っている歴史的な建物はそれほど多くなく、10~20%と見られている。一方、商業が盛んで、有数の人口密度の密集地区であり、かつ地価が極めて高いという地区である。ここでは、オーソドックスな町並み保存の考え方・手法は通用せず、「なぜ、何を、どのように保存するか」という基本テーマが絶えず問い返される。そこで、この基本的問いかけに的確に解答することができるようになること、それをふまえたまちづくりの手法を開発すること。両者を通じて、歴史的に維持・発展してきたデザインの原理をあきらかにすること、それを踏まえてデザインコードを組み立てることが基本テーマとなる。また、手法について言えば、複雑な権利関係を解きほぐしながら修復や建て替えを進める再開発的手法が課題となる。

4. 研究成果

まず、研究の経過をまとめる：

(1) 初年度：ベトナム側と研究グループを組織化をまず着手、ヴィエト・アイン氏（ハノイ市36町保存事務所・副所長）およびファム・テュイ・ロアン氏（ハノイ建築大学講師）とともに研究グループを組織、研究期間内で実現すべきこと、方法などを協議した。具体的には広い36通り町のうち、これまでの経過も踏まえ Hang Bac、Ma Mai、Hang Buom にフォーカスすることを同意、その一部について「36町全体の変容過程に関する調査」および「建物および街区の現地調査」を共同で実施した。具体的には、町全体については宗教施設、街区・建物レベルでは Ma Mai 通りの一部について詳しい調査を行った。また、11月にハノイにおいて、公開の研究集会「Hanoi Ancient Quarter Conservation Study Groups Meeting: Findings of Recent Research」（通称・36町学会）を開催した。ここで、ベトナム側研究者と共同の土壌をつくるが必要と判断、2月に彼らとともに日本の経験と課題を把握する機会を設けた。そのため、計画していたフランス所在の古写真の収集は、次年度へ回すこととした。

(2) 二年度：「36町全体の変容過程に関する調査」について、昨年に続き、当地区の歴史に詳しい人等へのインタビューを実施。現地調査の費用がかさみ、フランス所在の古写真の収集はできなかった。もっとも中心となる作業「建物および街区の現地調査」は、Hang Buom 通りの建物を対象に、詳細な調査を実施した。この地区は、ベトナム側でいくつかのプロジェクトを実施した経験や既存の計画案が存在する地区で、それらの経験・資料を受け継ぎ、ベトナム側専門家と共通の土俵で議論をしつつ、街区の改善手法を検討する上でも最適な場所である。過去の調査結果もともに、36町地区の歴史的建物の類型化とその発展プロセスについて仮説を組み直す「歴史的な建物の復元等による分析」を実施。さらに Hang Buom 通りの建物を対象に、保全と改善を両立する「モデル設計」を検討、その結果、なお権利関係等解明すべき今後の調査の課題も明らかになった。以上および昨年の活動の結果を、3月に「36町学会」を開催し、報告・討論した。この会合には、研究者のほか、行政官、住民が参加、その模様は各種メディアで報道された。

(3) 最終年度：これまで見出された知見をもとに、より具体的に保存の方法を明らかにすることに力を注いだ。とくに、ベトナムサイドの考えている町並み保存の方法との違い、論点を明確にすることが本研究の重要なポイントになると考えるに至った。そこで、かつて再開発案が検討された地区について、いつそ

う詳細な調査を行い、異なったパラダイムでの町並みの保存・再生手法を検討することとした（なお、この再開発案は、日本政府の支援するハノイ市マスタープランHAIDEPの一部として、日本のコンサルタントの手によってなされたもので、日本の時代遅れの再開発手法を「輸出」する日本の海外支援と闘わざるを得なくなったのである）。幸いにも、本地区は、2年度目までに調査を行った地区と重なり、その調査をより詳細に行うことで、地区の実態を明確に明らかにすることができた。この調査の結果をもとに、「有機的秩序」「漸進的成長」の原理に基づく町づくりが必要・可能であることをまとめ、3月に開催した3回目の「36町学会」において発表・討議した。同学会は新しく修復された調査地区内の寺院において、多くの専門家、行政担当者、住民を集めて開催された。その模様は、昨年以上に注目され、各種メディアで報道された。なお、費用の不足からフランス極東学院における調査は見送り、既に入手している手持ち資料で対応することとした。

この3年間に、それ以前の期間を含めて実測した建物の数は以下の通り：

	03	04	05	06	07	08	09
Hang Bac	6	2		1			
Dinh Liet				2			
Hang Be		1		1			

Ma May	4	1	4	1	9		
Ngo Phat Loc			4	2	3		
Luong Noc Quyen	3						3
Nguyen Sieu	2					1	
Hang Chinh					4		
Hang Buom						17	6
Hang Giay							4
Ta Hien	3						4
Tran Nhat Dua					1		
Dao Duy Tu							1

課題別に見た成果は次の通り：

(1) 「36町全体の変容過程に関する調査」について、ディン（コミュニティの集会所）、通り（フオング）ごとの門、寺院などの分布から、36町のコミュニティの構成とあり方が浮かび上がってきた。これを、古図から明らかになっている通りの建設年代、そして街区の形状（2面町か、4面町か）、建物の実測調査の結果などを加味して、36町の形成過程が想定され、その結果できあがった空間構成の解説が容易に行えるようになった。

(2) きわめて多様な建物が見出されるが、歴史的な建物の展開過程がほぼ明らかとなった。



Fig.2 Development of the Town Houses

棟の構成、平面プラン、断面の構成、ファサード（正面）の設えに、一定の関係が見出され、ある程度の編年も可能となった（下図）。

(3) チューブハウスと呼ばれる建物内での、人々の生活実態と生活を満たすための増改築について、多くの資料が得られた。明らかになったことを端的にまとめると次の通り：ひとつ住宅が、数家族で分割される。家族は、床を所有する場合と部屋を借りている場合に分かれる。前者では、すき間のある方向（権利の及ぶ範囲、上層階がない場合は上方、庭やテラスに面している場合は庭）へ増築を重ねる。しばしば正面のテラスや中庭をつぶして水回りが設けられる。広がる余地のない1階の部屋はますます暗くなり、劣悪な環境に置かれる。こうして、最高や通風の不十分な複雑な間取りの住宅が生まれている。町並み保存の関心が集まるファサードの修復は、これら建物全体の問題を解決しないと達成されない。

(4) 歴史的な建物（町家）と町並み・居住環境の関連について、まず実測した建物の類型科を行った上で、これらの建物が町並みを構成することで生まれる秩序を明らかにした。それらは有機的秩序と呼ぶべきもので、以下の5点である：

1. Streets are enclosed
2. A gradation from community to privacy is formed
3. The fronts of the houses has filled the gap between inside and outside
4. An order to secure the environment in the back of the street has been established
5. Order and diversity have been realized simultaneously

この有機的秩序は、歴史的に維持・発展してきた個々の建物パターンによって導かれたものである（The organic order has been guided by design principles inherited historically called “pattern”）。Four-Story Limit、Building Complex、Main Building facing the Street、Courtyards which live、Sheltering Roof、Indoor Sunlight、Building Fronts、Building Edgeなどの基本パターンを、36町的に展開してデザインコードを構成するパターンが導かれる。

整備の手法については、上述のように、日本政府の支援するハノイ市マスタープランHAIDEPの一部として、日本のコンサルタントの手によってなされた再開発案へのオルタナティブという形で展開した。具体案をここに掲載する余裕はないが、上述の「有機的秩序の原理」に加え「漸進的成長の原理（The construction undertaken in each step will be weighed overwhelmingly towards small projects）」

に基づいたプロセス（計画案）を提示し、検討の対象とした。また、それを支える制度的スキームとして、権利を調整し、修復によって得られる開発利益を還元することで、事業の展開が可能であることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

- ① UTSUMI Sawako: Reconstruction and how to live in the traditional town houses: The case of Hanoi 36 Streets, Vietnam, The East Asian Architecture and Urbanism Under Occidentalism, 東亞建築文化国際研討會論文集、2009、査読有
- ② FUKUKAWA Yuichi: Why, What & How to Conserve in the "36 Guild Streets"? The features of traditional town houses and their meaning, 昭和女子大学国際文化研究所紀要 13, 2010.3, pp.59-72、査読なし
- ③ MARTIN Morris: The Shop-houses of Hanoi's 36 Guild Streets Area: Thoughts on their development, place in history and potential, 昭和女子大学国際文化研究所紀要 13, 2010.3, pp.73-106、査読なし
- ④ UTSUMI Sawako: Traditional and Modern Aspects of Life in the Town Houses of Hanoi's 36 Guild Streets Area, 昭和女子大学国際文化研究所紀要 13, 2010.3, pp.107-114、査読なし
- ⑤ 内海佐和子: 活動報告：ハノイ 36 通り地区保存活用セミナー、昭和女子大学国際文化研究所紀要 13, 2010.3, pp.119-122、査読なし
- ⑥ 大田省一、「フィールドワークは何を指したのか」、『建築雑誌』、日本建築学会、Vol.124, No.1593、2009.8、p.4、p.38、査読なし
- ⑦ UTSUMI Sawako, "Hanoi Old Quarter - It's Tradition & Modernization viewing from the Change of Living Space in Town Houses", 7th ISIAA, Neo-Value in Asian Architecture Proceedings, 2008.10, pp.0592~0596、査読有
- ⑧ 内海佐和子「居住空間の改変からみた町並み保存の課題 ベトナム・ハノイ 36 通り地区の保存に関する研究」2008.8、昭和女子大学紀要学苑 普通号 第 814 号 pp. 44~52、査読なし
- ⑨ 大田省一「ローカリティー建築の中の地域性へ：その視線の時代相」、『建築雑誌』、日本建築学会、Vol.123, No.1570、2008.1、pp.40-41、査読なし
- ⑩ 大田省一「仏領期ベトナムの都市組織の変容—街区形態の変容とそれを支えた社

会組織の変容」『年報都市史研究 15—分節構造と社会的結合』山川出版社、2007.12、pp.56-65、査読なし

- ⑪ 大田省一「不可視的な都市／可視的な建築—ハノイ旧市街の〈内と外〉」『都市の〈内と外〉』日本建築学会都市史小委員会シンポジウム資料、日本建築学会、2007、pp.11-14、査読なし
- ⑫ 大田省一「ベトナムの町家形式の特徴と比較の視点」、『東アジアから日本の都市住宅（町家）を捉える』日本建築学会大会歴史意匠委員会、2007、pp.13-20、査読なし
- ⑬ 内海佐和子「業種の観光化に伴う町家の外観の変化 ベトナム・ハノイ 36 通り地区の保存に関する研究」2007.5 昭和女子大学紀要学苑 総合教育センター号、第 799 号、pp.57-65、査読なし

〔学会発表〕（計 5 件）

- ① UTSUMI Sawako, "The Living Condition of Town Houses in the Hanoi 36 Guild Streets", 2009.8 International Festival in Hoi An 2009, Conservation of Old Town Houses
- ② FUKUKAWA Yuichi: Why, What and How Conserve: The case of the 36 Guild Street in Hanoi ?, Forum UNESCO 12th International Seminar, Hanoi, 7 Apr. 2009, Hanoi
- ③ OTA Shoichi, "Modernization by the Monarch: Architectural Transition in Royal Capitals in Indochina", Proceedings of Whose EA-International conference on East Asian Architectural Culture, Apr.2009 (printing).
- ④ 内海佐和子、福川裕一、モリス・マーティン、大田省一：居住空間の改変からみた町並み保存の課題 ベトナム・ハノイ 36 通り地区における町並み保存に関する研究 その 5、2008.9、日本建築学会大会学術講演梗概集 2008 年、建築計画Ⅱ（中国）
- ⑤ 内海佐和子、福川裕一、モリス・マーティン、大田省一：伝統的地区における業種の観光変容に伴う町家の外観の変化 ベトナム・ハノイ 36 通り地区における町並み保存に関する研究 その 4、2007.8、日本建築学会大会学術講演梗概集 2007 年、都市計画（福岡）

〔図書〕（計 0 件）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福川 裕一 (FUKUKAWA YUICHI)
千葉大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号：60130829

(2) 研究分担者

モリス・マーチン (MORRIS MARTIN)
千葉大学・大学院工学研究科・教授
研究者番号：20282444

大田 省一 (OTA SHOICHI)
東京大学・生産技術研究所・助教
研究者番号：60343147

内海 佐和子 (UTSUMI SAWAKO)
昭和女子大学・国際文化研究所、研究員
研究者番号：10398711

(3) 研究協力者

TRẦN VIỆT ANH

Phó trưởng ban thường trực

Ban quản lý Phố cổ Hà Nội (Pho co Ban)

Vice- Director of Hanoi Ancient Quarter

Management Board

PHAM THUY LOAN

Urban and Architectural Institute, University

of Civil engineering, Lecturer

TA QUYNH HOA

Faculty of Architecture and Urban Planning,

University of Civil engineering, Lecturer

NGUYEN PHUONG NGA

Faculty of Architecture and Urban Planning,

University of Civil engineering, Lecturer